

資料 1

| 教育と文化のまち千代田区宣言

| 国際平和都市千代田区宣言



## 教育と文化のまち千代田区宣言

昭和59年3月15日告示第15号

わたしたちのまち千代田区は、日本の首都の中心に位置し、近代日本の歴史とともに歩み続け、また近代教育発祥の地として各界にわたる多くの優れた先人を生み、日本の発展の礎を築いてきた。そして、豊かな特色ある産業や江戸以来連綿と引き継がれた江戸つ子気質の個性ある文化といきいきとした生活環境を育んできた。

わたしたちは、ここに生活し、多くの人々と連帯の絆を保つ中で、このまちに誇りと愛着を感じている。しかし、東京の都市構造は日本の経済発展とともに変容し、今までの歴史的環境がこわされ、多くの仲間がこのまちを離れ、地域社会としての人々のふれあいが薄くなり、都市としての活力が失われつつあることにわたしたちは不安を感じている。

わたしたちの千代田区は、これからも首都としての中核機能と共存し、文化的な都市型産業を育成し、職場と住居の近接を図って都心の空洞化を克服していかなければならない。そして、いきいきとした生活の場、学ぶ場、働く場として将来に向けて新たに発展していくために、わたしたちすべてが、今改めてこのまちをわがまちとして考え、自らの力で心と心のふれあう魅力あるまちに築きあげる決意をし、努力を続ける必要がある。

この魅力あるまちづくりのためのよりどころとして、わたしたちは「教育」と「文化」を考える。

なぜなら「教育」は、わたしたちが、そしてわたしたちの子どもたちが今を生き未来をより良く生きるための糧であり、「文化」はわたしたちがつくるまちそのものであり、生活そのものであるからである。

この千代田のまちで生活し、学び、働きそしてこのまちを愛するわたしたちすべては、今ここに五つの目標の達成を期し、千代田区を教育と文化のまちとすることを宣言する。

- 一 わたしたちは、いきいきとした地域生活を取り戻し、居住と職域の調和した、自立的で、文化の香り高いまちづくりを目指します。
- 一 わたしたちは、地域に根ざした人間性豊かな教育を行い、歴史的に培われた郷土の文化遺産を子どもたちに伝え、次の世代の市民を育みます。
- 一 わたしたちは、ここに集い、働き、学ぶ人々とともに文化を高め、あらゆる機会と場を通じて、生涯にわたり学び続けます。
- 一 わたしたちは、首都東京の顔にふさわしい美しい環境を守り、広く世界の人々と交流を図ります。
- 一 わたしたちは、政策のすべてが文化の視点から見直され、展開されることを求めます。

昭和59年3月15日  
千代田区

## 国際平和都市千代田区宣言

平成7年3月15日告示第29号

地球は 生命が息づく かけがえのない星  
この地球を 平和と希望にみちた  
輝く星にしよう

過去 私たちは 戦争を経験した  
多くの人びとが傷つき 犠牲となった  
二度と戦争が 起こることのないように  
かたく誓い いつまでも  
後世に伝えていこう

現在 世界の各地で まだ争いがある  
飢えて 苦しんでいる人びとがいる  
地球環境の破壊が つづいている  
今はもう 自分たちだけの平和と安全を  
考える時代ではない

国際都市千代田区に住み

働き 学ぶ私たちは

世界の人びとと 連帯して  
核兵器をなくし

平和な世界を築きあげよう  
未来に向かって

世界の人びとと 友好を深め  
同じ地球の仲間として  
お互いを理解しあおう

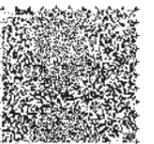
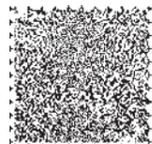
私たちは 世界の恒久平和を  
実現するために

積極的に 行動することを  
ここに宣言する

平成7年3月15日  
千代田区

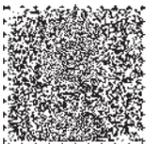
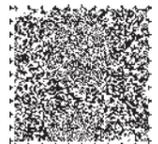


千代田区役所本庁舎に設置された「平和祈念モニュメント」



## 資料 2

- | 千代田区基本構想懇談会の概要
- | 千代田区基本構想懇談会からの提言書
- | 懇談会や団体関係者ヒアリングで  
いただいた主な意見
- | 千代田区基本構想懇談会設置要綱
- | 策定過程



# 1 千代田区基本構想懇談会の概要

## (1) 開催目的

千代田区基本構想懇談会(以下「懇談会」という。)は千代田区の基本構想の策定に向けた検討にあたり、(仮称)第4次基本構想のたたき台等について区民から多様な意見を募るため設置、開催されたものです。

なお、懇談会は「教育と文化」、「福祉と保健」、「くらしとまちづくり」の3分野に分けた部会を設置し、各分野の視点から協議を行いました。

## (2) 懇談会メンバー

区民(五十音順)

氏名	所属部会
秋元 純	教育と文化
石井 輝光	くらしとまちづくり
奥田 聖	くらしとまちづくり
賈 松年	教育と文化
坂田 みほ子	福祉と保健
佐藤 陽一	くらしとまちづくり
清水 誠	くらしとまちづくり
杉野 順清	教育と文化
鈴木 寿明	福祉と保健
竹田 靖子	教育と文化
田中 晶子	教育と文化
玉川 優子	教育と文化
都野 織恵	福祉と保健
都丸 雄一郎	福祉と保健
中谷 太一	福祉と保健
難波 千鶴	福祉と保健
根本 安曇	くらしとまちづくり

※辞退者は無記名

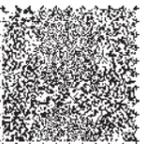
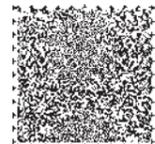
学識経験者

氏名	所属部会
牛山 久仁彦 (明治大学政治経済学部教授)	会長
藤井 千恵子 (元国士舘大学体育学部教授/ 元千代田区教育委員会指導主事)	副会長/教育と文化【部会長】
石山 麗子 (国際医療福祉大学大学院教授)	福祉と保健【部会長】
杉崎 和久 (法政大学法学部教授)	くらしとまちづくり【部会長】

## (3) 開催日・各回の主な内容

令和4(2022)年度に以下のとおり、懇談会を実施しました。

回	開催日	主な内容
第1回全体会	7月25日	・区の現況説明 ・新たな基本構想策定について概要説明
第1回部会	7月28日	・千代田区の良いところ・好きなところについて意見交換 ・めざすべき将来像・分野別の将来像について意見交換 ・現行計画における施策の振り返り
第2回全体会	8月29日	・団体関係者ヒアリング、職員アンケート等結果の報告 ・めざすべき将来像・分野別の将来像等について協議 ・構造等について協議
第2回部会	9月2日 9月9日	・属性別アンケート等結果の報告 ・めざすべき姿について意見交換
第3回全体会	10月6日	・提言書の作成
第4回全体会	11月8日	・提言書の取りまとめ
提言書提出式	11月11日	・提言書の提出



## 2 千代田区基本構想懇談会からの提言書

### (1) はじめに

千代田区の新たな基本構想の策定に向け、区民の参画や協働を通じて、区民が共感できる基本構想を検討するために、懇談会が設置されました。

令和3(2021)年度に、無作為抽出の在住区民4,000名を対象に「区の施策や将来像に関するアンケート」が実施されました。懇談会のメンバーは、その回答者で、懇談会への参加を希望した区民の中から、千代田区の年齢や男女比を考慮して無作為に選ばれた18名と学識経験者4名で構成されました。

懇談会は、令和4(2022)年7月から11月にかけて、全体会と分野別の部会を計6回開催し、(仮称)第4次基本構想のたたき台等について協議を重ねてきました。

全体会では、現総合計画の振り返りや、各部会の意見を踏まえて将来像について検討し、意見の取りまとめを行いました。また、部会では、各分野の視点から将来像やめざすべき姿について協議し、様々な意見を活発に交わしました。

千代田区がこれからも発展し、区に関わるすべての人にとって誇れる素晴らしいまちとなるよう、ここに提言書として提出します。

新たな基本構想の策定にあたっては、今回の提言の内容が反映され、今後の区政運営に活かされることを期待します。

令和4(2022)年11月  
千代田区基本構想懇談会

### (2) 提言内容(提言部分のみ抜粋)

#### 1 「はじめに」・「区と基本構想の役割」について

(提言内容)

「はじめに」の部分については、本基本構想を手にとってくれた人の関心を引き付ける重要な部分である。文量を工夫するなど、できる限り簡潔で理解しやすい内容となるようにされたい。また、歴史に触れる場合には客観的で正確な記述に努めるようにされたい。

新型コロナウイルス感染症拡大について触れているが、それ以外にも、多様性の尊重、ジェンダー平等、国際化の進展、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催、社会全体のデジタル化の推進などの社会情勢も変化していることを理解したうえで、区民をはじめとする千代田区に関わるすべての人のための基本構想であることを明確にされたい。

「区と基本構想の役割」の部分については、区役所が、区民をはじめとする千代田区に関わるすべての人にとって、身近で頼れる存在であろうとすることを明確にされたい。

#### 2 「めざすべき将来像」について

(提言内容)

千代田区は、日本の政治・経済・文化の中心に位置し、先駆的で特色ある取組みを実施してきた自治体の1つであるため、今も躍進し続けていることが伝わるようにされたい。また、千代田区らしさを表現するなど千代田区の将来像であることをより明確にされたい。

「伝統とモダン」という表現について、区の説明では、「モダン」は新しい文化や新しく住まう人、近未来の景色などの思いが込められているとのことであった。その思い自体は理解するものであるが、本懇談会では、別の表現に改めることも含めて様々な意見が挙げられた。については懇談会で出た様々な意見を踏まえ、表現について改めて検討していただきたい。

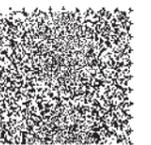
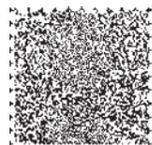
伝統や歴史、文化について、これまで守ってきたものを引き続き大切にしていけるとともに、新しい文化や価値観が調和、融合されたまちを目指していただきたい。

千代田区に住み、働き、学び、集う人びとは、年齢、性別、障害の有無、国籍などの多様性にあふれている。また、まちに目を向けると、質の高い多様なまち並みが既に備わっている。

これらの多様性が尊重され、魅力を更に引き出していくことを示していただきたい。

千代田区に関わるすべての人が、地域のつながりや世代を越えたつながりを築けることが、千代田区のめざすべき将来像においても重要な要素であると考えられる。めざすべき将来像には、このような「つながり」の重要性を想起させる言葉を取り入れていただきたい。

懇談会の議論を経て、様々な千代田区の良いところや魅力を共有した。この魅力的な千代田区に、住みたい人が住み続けられるまち、持続可能なまちになることをめざすべき将来像の中に取り入れていただきたい。



### 3 「分野別の将来像」について

#### (自分らしく健やかに暮らし、笑顔で成長しあえるまち)

##### (提言内容)

子育てについては、ライフスタイルのみならずライフステージにも考慮がなされ、生み育みたいと願う人が充実した子育てができているような将来像を掲げていただきたい。また、子どもの個性や意思が尊重され、大切に育まれることが伝わるようにしていただきたい。

こちらの分野別の将来像には社会的包摂の考えをより反映するべきと考える。年齢、性別、障害の有無、国籍などに関わらず、多様性を尊重し、誰一人取り残されることのない、お互いに支え合い、希望をもてる将来像を掲げていただきたい。

健康面については、様々な観点から考える必要がある。昨今メンタルヘルスが注目を浴びている社会的背景を考慮し、体だけの健康だけでなく精神面の健康についても向上されることが分かるような将来像としていただきたい。

千代田区は伝統や歴史があるまちなので、それらを守り、後世に受け継いでいていただきたい。区に関わる人達が区の伝統や歴史を学び、知ること、皆が心豊かに成長することを期待できるような将来像としていただきたい。

#### (集い、つながり、活気とにぎわいのあるまち)

##### (提言内容)

千代田区で生まれ育った人と新たに千代田区に住む人がつながり、地域との関係を築くことが重要であると考え。特に、単身世帯や夫婦のみの世帯は地域とのつながりを築くきっかけが少ない。千代田区に関わるすべての人が、互いにつながるきっかけを得られるようにすることで、支え合うことができるまちを将来像として掲げていただきたい。

千代田区は大企業が集積し、日本の経済をけん引してきた。また、多くの大学や学校があり、若く活気にあふれている。千代田区を支え、賑わいを創出している様々な企業や商店、大学を大切に、千代田区の地域特性を活かした将来像を取り入れていただきたい。

#### (やすらぎを感じ、安心して快適に暮らせるまち)

##### (提言内容)

千代田区は皇居を中心に自然にあふれているが、地域によっては緑が少なく区民が自然に触れ合う機会が少なくなっている。自然は人々にやすらぎを与える重要な要素であり、自然があることで住民も千代田区に対し愛着や誇りを感じるものである。都心でありながらも、公園の整備などを通じて身近に自然と触れ合うことができるまちづくりを推進する意思を将来像に込めていただきたい。

これからのまちづくりにあたっては、交通の利便性の向上やバリアフリー化など千代田区に関わる人々が生活しやすくなることを将来像に取り入れていただきたい。

災害については、近年台風や集中豪雨といった激甚化する自然災害や今後懸念される大規模地震など注目を集めているところである。昼間人口やビルの多さといった千代田区の個別事情に留意しながら、ハード面の整備や災害時における体制の強化など災害に強いまちを実現していくことを期待する。

### 4 「基本構想の実現に向けて」について

##### (提言内容)

住民自治は区民の参画・協働が前提であり、区は、区民の様々な意見を尊重し、区民からの理解を得られるよう区政運営に努めていただきたい。

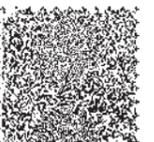
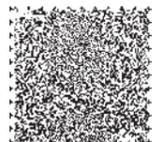
人権や平和を守る取組みについては、「はじめに」でも述べられている「国際平和都市千代田区宣言」を十分に踏まえたうえで進めていかれたい。

### 5 基本構想全体に関わる意見

##### (提言内容)

本基本構想の特徴として期限が設定されていないことが挙げられる。めまぐるしく社会情勢が変わる現代において、あえて期限を設定しないことで、社会に大きな変化が生じた際に柔軟に取組みの見直しを図ることができることのであった。しかし、期限がないことにより、将来像がどの程度未来を見据えているのかが分かりにくいことを懸念する意見が挙げられた。期限の設定については一長一短あるため、もう一度その必要性について慎重に検討されたい。

本基本構想が千代田区に関わるすべての人と共有するものであることに鑑み、正確な記述に努め、簡潔で理解しやすい構成や文面、見やすいデザインなどの工夫をし、誰からも親しまれる基本構想としていただきたい。



### 3 懇談会や団体関係者ヒアリングでいただいた主な意見

#### 「はじめに」・「区と基本構想の役割」について

「千代田」の歴史は、「千代田」の存在意義であるため、歴史の記載は必要であり、正確に記述すべきである。

20年前と現在の大きな違いは、「多様性」、「国際化」、「IT化」であり、その3点が内包されると良いのではないかな。

住民と行政とのつながりを示す構想にしてほしい。

#### 「めざすべき将来像」について

写真や絵で千代田区らしさを表現すると良いのではないかな。

江戸時代から蓄積してきた文化などは、千代田区特有の魅力である。そういった魅力は明確に強みとして記載した方が良い。

常に新しいものが生み出され、それが伝統として受け継がれてきた場所という認識があっても良い。

質の高い様々なまちの要素が既に備わっている。将来に向けての魅力を既にある魅力からものと引き出せると良い。

地域のつながりや人間味があることを守りながら、発展して行ってほしい。

安全安心に生活できるなど、長期的に住み続けられるという持続可能性についても触れた方が良いのではないかな。

伝統とは担う人が必要であり、そういった人がいなくなると伝統は途絶えてしまう。

#### 「分野別の将来像」について

#### 「自分らしく健やかに暮らし、笑顔で成長しあえるまち」

「ライフスタイル」ではなく「ライフステージ」、「安心」ではなく「充実」に変更して、「ライフステージに応じて充実した子育て」に変更すべきではないかな。

「平等」という言葉が大事なポイントになる。一人ひとりの子どもに合った個性や意思を尊重できる機会を与えられることが必要である。

将来像を掲げるにあたっては、「自分らしく」という言葉はキーワードになっている。

孤独を感じている人はおり、そのような人たちにとっては、「誰一人取り残されることがなく」という表現は響く。

国際的な学びの場や文化的な施設といった地域性を活かした内容が盛り込まれると良いかもしれない。

子どもがしっかりと遊べる場が必要だと思う。子ども達にとって住みよいまちにしてほしい。

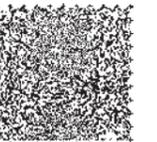
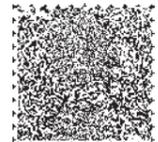
知的障害や精神障害を持つ方は、自ら声を上げたいが、自分の意見を発言する場や、自分の意見を発言できるようになる学びの場がない。当事者が自分の意見を発言できるようになることは重要であると思う。

家族や地域との関係が保たれてこそ、健康が維持されると考えられているため、そのような視点も重要である。

今は新しい区民が増えていて子どもを対象とした取組みや施設を建てるのが重要でも、将来的に、子どもが成長した後は何が必要かを見据えて考えないといけない。

ダイバーシティ&インクルージョンの考え方に沿い、多様な存在を認めるというニュアンスを追加できると良い。

健康とあるが、身体的な健康だけでなく「精神」の健康の要素も盛り込んでほしい。



### 「集い、つながり、活気とにぎわいのあるまち」

子ども、子育て以外に地域と繋がれるようなルートがあったら良い。

新住民も気軽にお祭りなどに参加ができるようなプラットフォームが必要だと考える。また、ボランティアなど出会いのきっかけを行政が積極的に周知し、少しずつ人とのつながりを形成できると良い。また、それは、単発的な取り組みではなく、継続的に取り組めると良い。

区がフォーマルな交流の場を提供するのではなく、自然体で、興味関心を通じてつながるコミュニケーションの場を増やしていけると良い。

アフターコロナの社会でこそ、人々が集える場所を作ることが重要であり、賑わいを取り戻す必要がある。

国際的な面も強いことや地域に大学が点在していることも特徴である。大学との連携を構想に入れ込めれば千代田区らしさが出てくるだろう。

分野別将来像に千代田区らしさを出すためには、ビジネスの要素を打ち出しても良いのではないか。

マンション内のコミュニティや、マンションと周辺地域のコミュニティがしっかり形成されていないことは大きな課題であると認識している。また、地域の取組みに参加する人が増えないと、災害時の対応など新たな課題が生まれる。

人との支え合いについては、伝統的な町会のようなしっかりしたつながりだけでなく、もっとライトなつながりなどいろいろな関わり方を支持するような書き方にすると、少し都会的で千代田らしくなるのではないかな。

地域とどの程度関わられたかによって、子育ての充実度が違う。例えば私立学校に子どもが通っている場合、地域との関わりがない。地域と関わりがあることによって、お祭りに参加したり、地域のおじさん、おばさんとあいさつをしたり関わりが生まれてくる。

### 「やすらぎを感じ、安心して快適に暮らせるまち」

障害のある方にとって歩きやすい道、使いやすい公園といったまちづくり、場所づくりが必要と考える。

千代田区は自然を大事にしていると感じる。皇居を中心に、緑や生物を大事にしているので、基本構想の中で「まちの中にある自然を大事にする」といったメッセージを入れると良いのではないかと感じる。

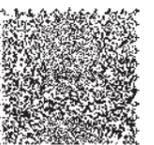
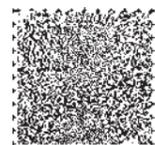
分野別将来像の「都市基盤や災害の体制」に関して、ハードだけではなくソフトな面での災害対応も重要である。

災害対策に関する記述の中で「安心」について強調したほうが良い。どのような事業を行っていくかなどの具体的な話は、別につくる計画に落とし込むのかもしれないが、安心についてももう少し触れてほしい。

### 「基本構想の実現に向けて」について

自治は区民参画が前提であり、区民の賛成意見・反対意見をうまく調和させることで成り立つものであると考えている。

賛成反対だけでなく、どちらでも良いという声も含め、多様な意見がある。そのような意見を踏まえて合意を目指すような趣旨がここでは伝わると良いのではないかな。



## 基本構想全体に関わる意見

基本構想に期限はあった方がよく、その期限によって記載内容もかわってくるのではないかな。

恒久的な構想として考えるのであれば、時勢の変化に対応できるような内容にするべきである。

住民だけでなく、他区の人や外国の人など、区外の人視点も大事にしてほしい。

もう少し具体性を持たせた方がよいと思う。内容が包括的になっている。

千代田区の良いところは人的な配置が充実しているところ。今後ITなどが発展していくと思うが、直接的な人の優しさを読み取れると良い。

良きものは残し、変えるべきところ(差別や偏見)は変える、という考え方がベースになるとよい。

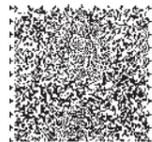
記載内容が区民に寄りすぎているので、企業や産業、大学に対する文言がない。千代田区に本社や大学があることがステータスだと思うので、そういった人に響く文言がほしい。

今住んでいる人は、どうしても短期的な目線で考えてしまいがちだが、基本構想は、非常に長期的な視点で考えていく必要があり、将来を考えて持続可能性を意識してほしい。

住民以外の「働いている人」や「学んでいる人」のための取組みも必要ではないか。そういった人たちに向けた取組みは事業者任せになっていると感じる。区も働く人や学ぶ人に向けた取組みを行うべきではないか。

住んでいたいに住み続けにくい。住み続けられるまちにしてほしい。人口は増加していくかもしれないが、受け継ぐ人を増やしていかなければいけない。

活動の場を確保することと、子ども達にスポーツに親しんでいただくことが重要だと思う。そのためには企業の力を借りることも重要だと思う。



## 区の実施に対する留意点

千代田区は企業が多いため、千代田区の企業人、霞が関、教育の場との連携を強化すると良いのではないかと考える。

生涯学習が出来るような環境づくりに努めてほしい。

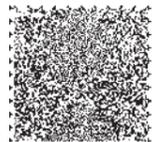
文化財を保護し、いかに伝えていくかということを考えてほしい。

公衆トイレが清潔で衛生的であることは重要であり、それは区民の安全・安心につながる。

地域住民と大学との連携をより推進することで、学び、集う機会や学生との交流にもつながる。

子どもや高齢者は行政サービスのニーズが高く、比較的行政の目も行き届きやすいと思うが、単身世帯のニーズもあると思われる。単身世帯の人々が地域の活動に関わることで、結果的に子どもや高齢者に良い影響を及ぼすことができるのではないかと考える。

ITを使える人とそうでない人の情報格差だけでなく、地元で古くから根差していない人が地元の情報を取得できないという情報格差が起こっているため、地域情報の格差を無くしていくような要素があると良いのではないかな。



## 4 千代田区基本構想懇談会設置要綱

令和4年7月5日  
4千政企画発第45号

(設置)

**第1条** 千代田区の基本構想(議会の議決を経て、その地域における総合的かつ計画的な行政の運営を図るために定める構想をいう。以下同じ。)の策定に向けた検討に当たり、区民から多様な意見を募るため、千代田区基本構想懇談会(以下「懇談会」という。)を設置する。

(所掌事項)

**第2条** 懇談会の所掌事項は、次のとおりとする。

- (1) 千代田区の基本構想に関すること。
- (2) 前号に掲げるもののほか、区長が必要と認める事項に関すること。

(組織)

**第3条** 懇談会は、次に掲げる構成員で組織する。

- (1) 区民 20人程度
- (2) 学識経験者 4人程度

2 構成員の任期は、令和5年3月31日までとする。

(会長及び副会長)

**第4条** 懇談会に会長を置き、構成員の中から区長が指名する。

- 2 会長は、懇談会を代表し、会務を総理する。
- 3 懇談会に副会長を置き、会長が指名する構成員をもってこれに充てる。
- 4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。

(会議の招集等)

**第5条** 懇談会は、区長が招集する。

- 2 懇談会の会議は、公開とする。

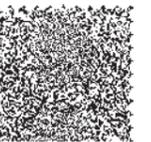
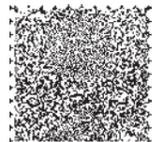
(部会)

**第6条** 基本構想のうち分野別の事項について意見を募るため、懇談会に部会を置く。

- 2 部会の構成員は、区長が指名する。
- 3 部会に部会長を置き、構成員の中から区長が指名する。
- 4 部会長は、会務を総理し、部会が所管する事項に係る意見等について会長に報告する。
- 5 部会の会議は、公開とする。

## 5 策定過程

年	月	項目	内容
令和3年 (2021年)		新たな基本構想の策定に向けた検討を開始	
令和4年 (2022年)	1月	区の施策や将来像に関するアンケート実施	在住区民4,000名、昼間区民1,000名を対象に、アンケートを実施
	5月	(仮称)第4次基本構想(たたき台)を作成	アンケートの結果等を踏まえ、(仮称)第4次基本構想(たたき台)を作成
	7月	千代田区基本構想懇談会の設置	区民18名(途中1名辞退)と学識経験者4名で構成。全体会と部会で協議
	7月	子どもアンケートの実施	区立の小学校5・6年生と中学校・中等教育学校全生徒を対象にアンケートを実施
	7-8月	区民等からの意見募集	(仮称)第4次基本構想(たたき台)について、区民等から意見を募集
	7-9月	団体関係者ヒアリングの実施	区内で活動する20以上の団体の関係者にヒアリングを実施
	11月	提言書を受領	懇談会から提出された提言書を受領
	11月	千代田区第4次基本構想(素案)を作成	懇談会からの提言書等を踏まえ、素案を作成
	12月	住民説明会の実施	住民説明会やオープンハウス型説明会を開催
	12-1月	意見公募の実施	意見公募を実施
令和5年 (2023年)	1月	千代田区第4次基本構想(案)の決定	住民説明会や意見公募を踏まえ、千代田区第4次基本構想(案)を決定
	3月	千代田区議会にて議決	千代田区議会第1回定例会にて、千代田区第4次基本構想を議決
	3月	千代田区第4次基本構想の策定	



## 千代田区第4次基本構想

---

令和5(2023)年3月発行

編集・発行:千代田区政策経営部企画課

〒102-8868 千代田区九段南1-2-1

電話 03-3264-2111(代表)

有償刊行物登録番号 04-09

写真提供:一般社団法人千代田区観光協会

(一部) 第6回東京大回廊写真コンテスト 入選作品

